

上田市文化財調査報告書第71集

平成9年度

# 市内遺跡

平成9年度市内遺跡発掘調査報告書

1998.3

上 田 市  
上田市教育委員会

上田市文化財調査報告書第71集

平成9年度

# 市内遺跡

平成9年度市内遺跡発掘調査報告書

1998.3

上 田 市  
上田市教育委員会



下前田遺跡 (第 7, 12, 17, 18, 25 図)



官原遺跡 (第 6 図)



官原遺跡 (第 18 図)



下前田遺跡 (第7図)



宮原遺跡 (第12図)



【表】

宮原遺跡 (第22図) (実物大)



【裏】



【表】

殿田遺跡 (第4図) (実物大)



【裏】

# 凡 例

## 遺 構

土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色彩票監修の『新版標準土色帖』1990を用いて判別した。

## 遺 物

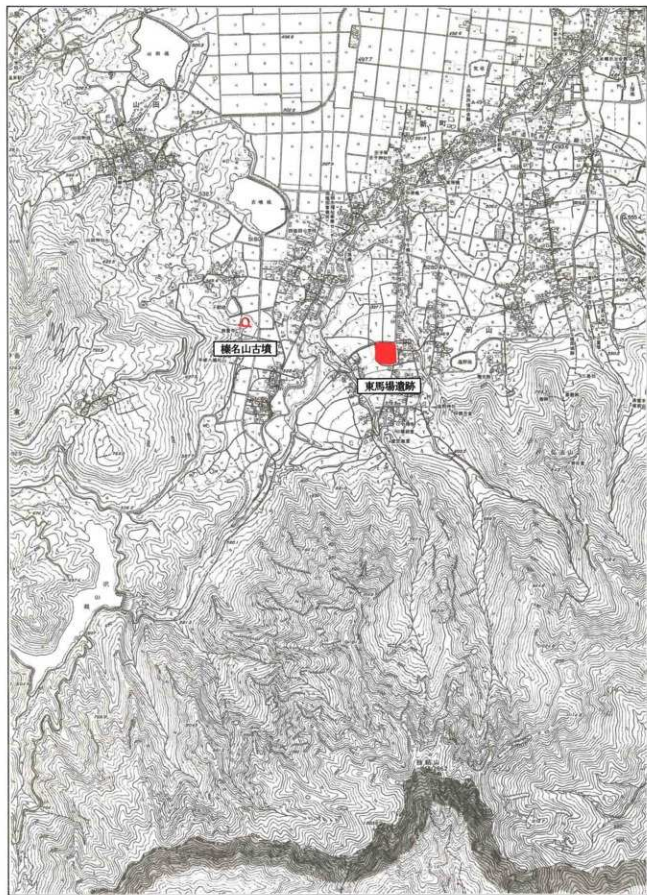
- 1 出土遺物観察表については、以下のとおりである。
  - (1) 器質は、胎土を「胎」、焼成を「焼」、色調を「色」と記載した。
  - (2) 法量の単位は、「cm」「g」で記載した。
  - (3) 内面及び外面の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色彩票監修の『新版標準土色帖』1990を用いて記載した。
- 2 本書に掲載した遺物実測図は、原則として原図1:1、縮尺1:3としたが、必要に応じて実寸もある。
- 3 土器の実測方法は、右1/2に断面及び内面を、左1/2に外面を記録する4分割法を原則とし、必要に応じてその率を変えた。また、黒色処理のある部分はスクリーントーンの黒で示し、赤色塗彩は赤で表示した。
- 4 遺物番号は、実測図版番号及び写真図版番号と一致している。また、遺物写真の縮小は任意である。

## 例 言

- 1 本書は、長野県上田市における各種開発事業に伴う、平成9年度市内遺跡発掘調査報告書である。
- 2 調査は、国庫補助事業・県費補助事業として、上田市（上田市教育委員会事務局文化課文化財係）が実施した。
- 3 現地調査は、上田市教育委員会事務局職員があたり、各調査ごとにその氏名を記した。
- 4 現地調査は、主としてバックホーによるトレンチ調査で行った。バックホーの貸借・運転については、和農興 竹内和好が行った。
- 5 本調査に係る資料は、上田市立信濃国分寺資料館に保管している。
- 6 本調査にあたり、開発施工主、担当課に調査実施に係る調整等、格段の御協力をいただいた。
- 7 本調査に係る事務局の体制は、以下のとおりである。

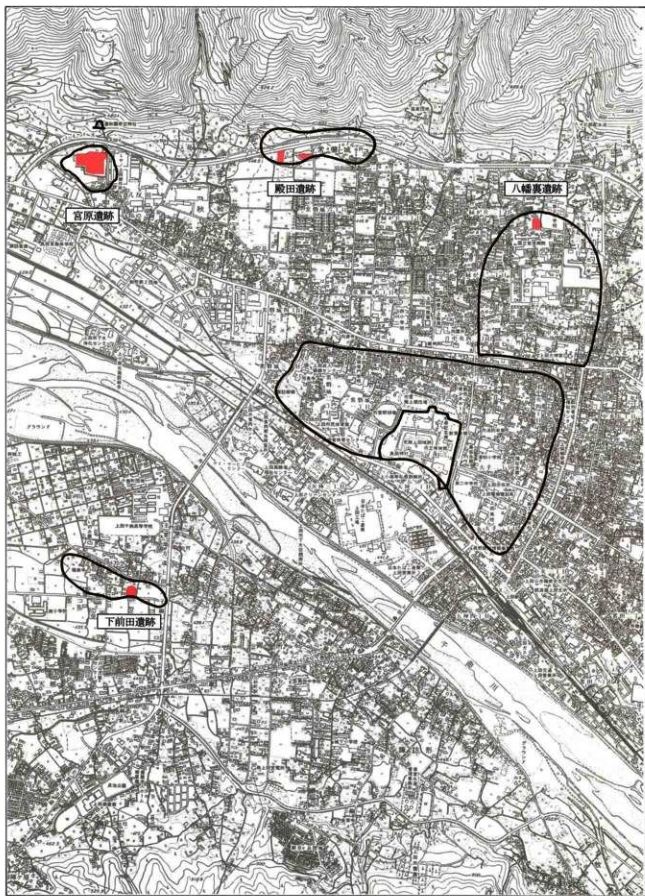
教 育 長	我妻 忠夫
教 育 次 長	宮下 明彦
文 化 課 長	川上 元
文 化 財 係 長	岡田 洋一
文 化 財 係 職 員	中沢徳士、尾見智志、塩崎幸夫、久保田教子、久保田 浩、 西澤和浩、清水 彰、小笠原正、望月貴弘、古野明子、 松野ひろみ
- 8 本書作成に係る作業は、以下のとおり分担して行った。

現 地 調 査	中沢、尾見、西澤、清水
遺 物 実 測 等	大井敬子、石合好江
遺 物 写 真	塩崎
本書執筆・編集	中沢、尾見、塩崎、西澤、清水



平成9年度市内遺跡発掘調査位置図

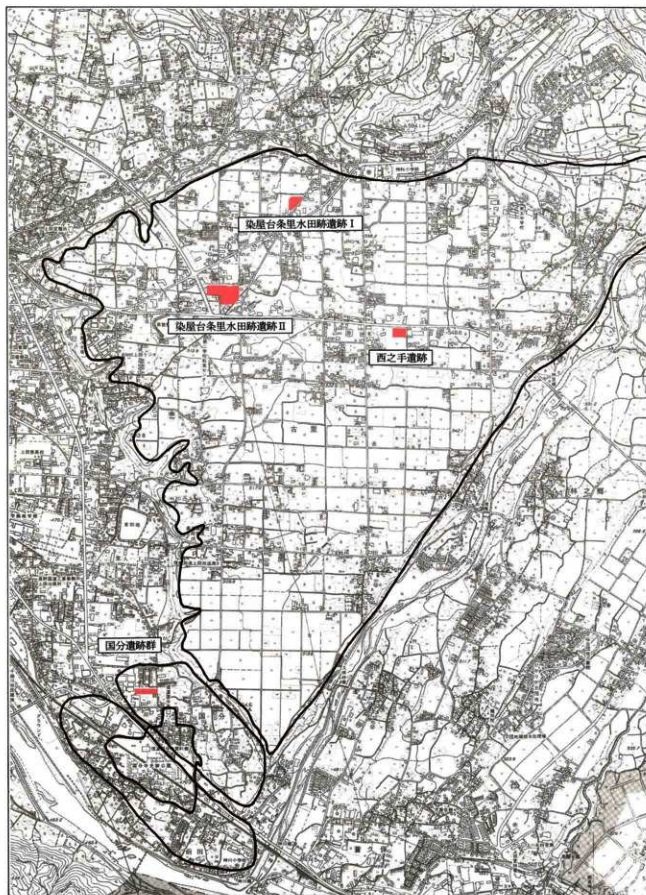




平成9年度市内遺跡発掘調査位置図

0 1000m





平成9年度市内遺跡発掘調査位置図

0 1000m

# 目 次

卷頭図版

例 言

凡 例

平成9年度市内遺跡発掘調査位置図

## 目 次

榛名山古墳	1
下前田遺跡	6
宮原遺跡	18
染屋台条里水田跡遺跡Ⅰ	30
染屋台条里水田跡遺跡（西之手遺跡）	33
八幡裏遺跡	36
東馬場遺跡	40
国分遺跡群（堂浦遺跡）	42
染屋台条里水田跡遺跡Ⅱ	45
殿田遺跡	48
報告書抄録	53

はるなやまこふん  
榛名山古墳

- 1 調査地 上田市大字手塚字滝沢 420、421 番地
- 2 原因 遺跡の確認調査
- 3 調査日 平成9年3月22日～平成9年3月25日
- 4 調査方法 幅約1mのトレンチを入れる
- 5 調査担当者 中沢徳士、尾見智志、久保田 浩、小笠原 正

### 遺跡の環境と経過

大正13（1924）年、当時の西塩田村を訪れた鳥居龍三氏（東京帝国大学教授）は、この榛名山を視察し、古墳の可能性を指摘した（大正13年6月1日西塩田時報 5号）。

その後、古墳か否か不明確なまま経過していた平成6年5月11日、地元の手塚自治会や郷土史研究会から、何らかの保護処置を講じ保存しなければならないため、発掘調査を実施して欲しいという要請が上田市教育委員会にあった。上田市教育委員会では、古墳を専門とされる長野県文化財保護審議委員会委員の岩崎卓也氏（東京家政大学教授）や、小林秀夫氏（（財）長野県埋蔵文化財センター部長）の御教示を仰ぎ、1/100の地形図を作成した。測量の結果、山は南北86m、東西70m、高さ17mの楕円形を呈し、古墳に極めて近い形態をしていること、古墳であれば県内でも最大規模の円墳であり、古墳の可能性は否定できないことが確認された。

一方、平成7年2月6日現地視察を行っていただいた、地質を専門とする山岸猪久馬氏に、榛名山は、自然の地形である可能性が極めて低いとの示唆を受けた。

上田市教育委員会では、こうした諸先生方の御指導の結果、「古墳ではない」とする明らかな証拠がない以上、試掘確認調査を実施し、実態を明らかにすることとした。

### 調査の結果

調査は、塩入秀敏氏（上田女子短期大学）の指導のもと、幅約1mのトレンチを頂部から国家座標にのせて西南北に1本づつ設定し、必要に応じて45°方向に追加のトレンチを入れることとした。また、実際の掘上作業は、手塚自治会の皆さんに発掘現場作業員として従事していただき、すべて手作業による。

こうした作業及び調査は、榛名山が古墳であった場合、県内で最大規模の古墳となるため、万全を期す必要があった。さらに、調査の過程を記録に残す処置と、調査による古墳の破壊を、最小限にとどめる必要があった。

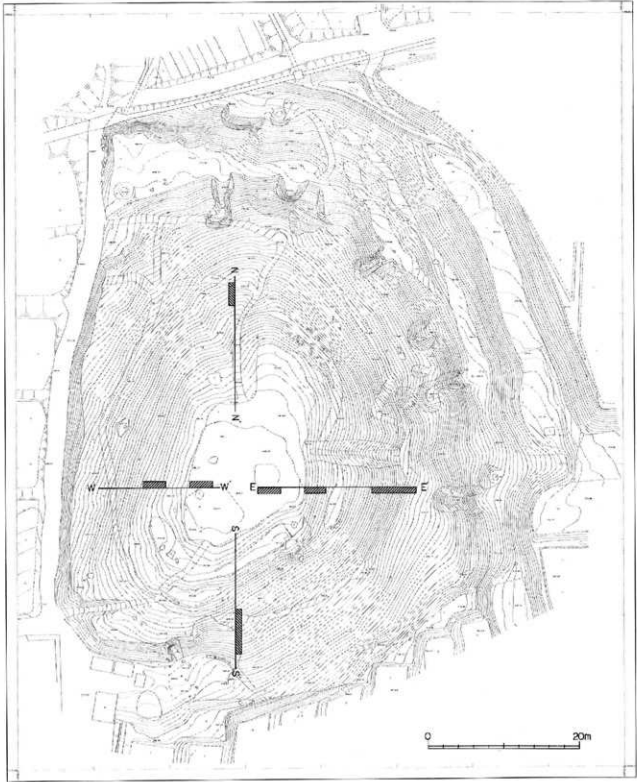
しかしながら調査の結果、表土を除いた段階で、安山岩の礫を含んだ地山層が検出され、中腹から下方では、粘質青灰色のシルト土層が確認されるにいたり、この山は、形態的に極めて円墳に近いものの、版築もない自然の地形であると結論付けざるを得なかった。

一方、山岸氏の所見では、沈降運動で塩田平が形成される過程で、この山だけが円状に取り残され、その後の侵食によって滑らかな円墳状の地形が形成された、極めて特殊な地殻運動で、地質学上貴重な発見であることを指摘された。

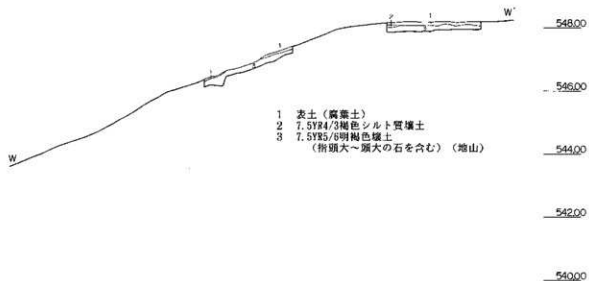
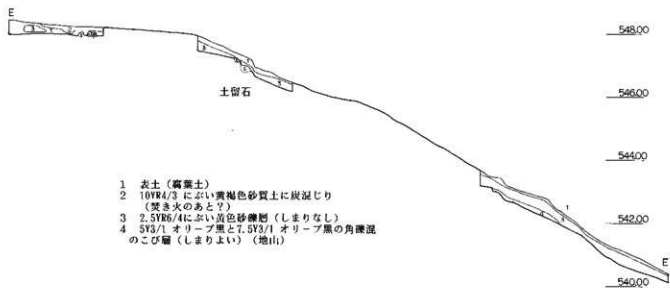


調査風景

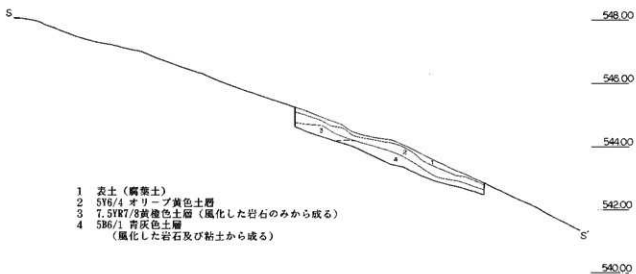
榛名山古墳地形図



榛名山古墳実測図



榛名山古墳実測図



榛名山古墳実測図

## 下前田遺跡

1 調査地	上田市大字中之条字下前田 549-6 外4筆
2 原因	賃貸住宅建設
3 開発面積	1,299.41㎡
4 調査日	平成9年4月18日
5 調査方法	幅約1mのトレンチを入れる
6 調査担当者	尾見智志

## 遺跡の環境と経過

上田市大字中之条地帯は、千曲川左岸にあり上田面と上田原面との間にある。市内を流れる千曲川の、川上は上堀から川下は塩尻岩鼻まで長さ約8km、幅は最も広い中央部で2kmある紡錘形をなしており、そのほぼ中央に位置する古来千曲川の自由な流れと、氾濫を欲しいままにしてきたところである。しかし、現在は国営による厳重な堤防で守られている。現在でも当地方は千曲川をはじめ各支流もその勾配が急で、洪水ともなれば水量が増すにつれ流速が大となり、浸食力と運搬力を増大し岸をかみ川床を削っている場所である。

「上田市の原始・古代文化」（1977年上田市教育委員会）によると、「県道上田稲荷山線の南側の畑及び水田地帯に、東西およそ600m、南北およそ100mにわたって、東から上前田・中前田・下前田・西前田の4遺跡が帯状に分布し、更に中前田遺跡の南方150mにわたって関石・額面の2遺跡がある。いずれも中期から晩期の土師器、後期の須恵器などを出土していることから、一体の遺跡と考えられる。」としている。

平成9年4月8日に現地立ち会いを行い、下前田遺跡の範囲内に含まれることを確認し、地権者の承諾を得た上で試掘の準備に取り掛かった。

平成9年4月18日に試掘調査を行い、堅穴住居跡等の遺構が存在することを確認した。その後、事業主との保護協議を行った結果、平成9年4月28日に遺跡を保護するため設計変更を行う合意が得られ、埋蔵文化財は保護された。

## 調査の結果

北からTr-01・02・03・04の4本の東西に長いトレンチを設定し試掘調査を行った。その結果、Tr-02とTr-03では、堅穴住居跡と思われる遺構が検出された。そのため、遺構の検出されたところを中心に、南北にTr-05とTr-0



6を設定し竪穴住居址の確認を進めた。Tr-02の竪穴住居址は平安時代（9世紀代）のものとして推定され、土師器の坏が出土した。また、Tr-03の竪穴住居址では土師器の坏や盤が出土している。これも平安時代（9世紀代）のものとして推定される。

## 遺物

- Tr-01 須恵器の蓋・土師器の坏、古墳時代後期の高坏
- Tr-02 土師器の坏
- Tr-03 土師器の坏、古墳時代後期の高坏、盤
- Tr-04 遺物なし
- Tr-05 須恵器の大甕、坏・土師器の坏、甕・灰釉陶器の碗・羽口
- Tr-06 須恵器の大甕・土師器の甕

## 土層柱状図

Tr-01



Tr-02

I	0 cm
II	16
III	27
VI	39

Tr-03

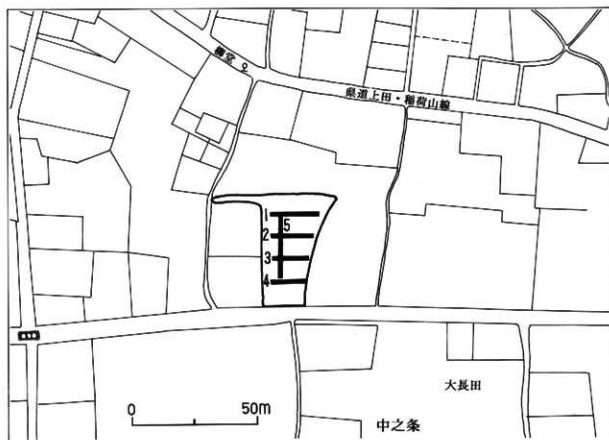
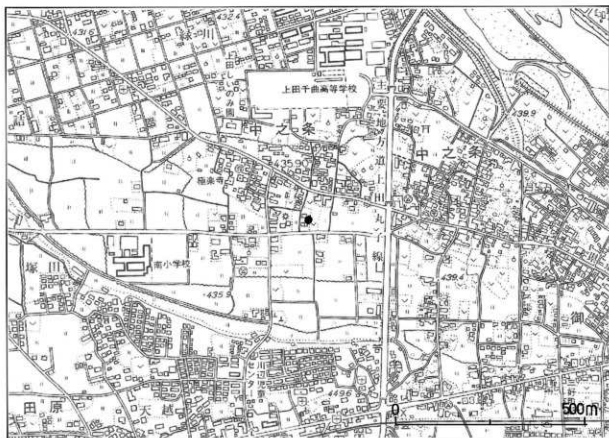
I	0 cm
IV	15
VI	22

Tr-04

I	0 cm
III	16
VII	37
VIII	59

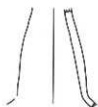


調査風景



下前田遺跡試掘調査位置図

## 下前田遺跡遺物実測図



第1図



第2図



第3図

トレンチNo 図版番号	器種 種類	法	量器	質	成形・形態・文様ほか	整形 形	ほか
Tr-01 第1図	高坏 土師	口径: - 残高: 8.0 底径: - 脚部1/3	胎: 石英・微砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 2.5YR7/8橙 (内) 2.5YR7/8橙		脚部柱状を呈し、裾部で屈曲して開く	(外) 撫で (内) 撫で	
Tr-01 第2図	坏 土師	口径: - 残高: - 底径: 5.0 底部完存	胎: 雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 7.5YR7/4いぶい橙 (内) 7.5YR7/4いぶい橙			(外) 底部回転糸切り (内) 撫で	
Tr-01 第3図	蓋 須恵	口径: - 残高: 1.4 底径: - 底部1/5	胎: 僅かに礫を含む 焼: 良好 色: (外) N5/灰 (内) N5/灰		天井部は平らで緩やかに口縁に至る	(外) 軸轆による回転糸切り (内) 軸轆による撫で	



第4図



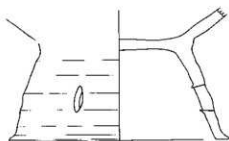
第5図



第6図

Tr-02 第4図	坏 土師	口径: 12.4 残高: 3.5 底径: - 1/3	胎: 石英・雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 5YR7/6橙 (内) 5YR7/6橙		丸底より内寄して立ち上がり口縁に至る	(外) 軸轆による撫で (内) 軸轆による撫で	
Tr-03 第5図	高坏 土師	口径: 17.6 残高: 5.2 底径: - 口縁部1/7	胎: 石英・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 5YR7/8橙 (内) 2.5YR6/8橙		坏部は外傾して立ち上がる	(外) 撫で (内) 撫で	
Tr-03 第6図	坏 土師	口径: 16.8 残高: 4.6 底径: - 口縁部~胴部1/4	胎: 石英・雲母・礫・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 7.5YR8/4浅黄橙~N3/黒 (内) 黒		僅かに外傾して立ち上がり口縁に至る	(外) 撫で (内) 篋磨き 黒色処理	





第7図



第8図

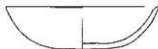


第9図

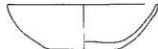
トレンチNo. 図版番号	器種 種類	法 量	器	質 成形・形態・文様ほか	整 形 ほ か
Tr-03 第7図	盤 土師	口径: -- 残高: 10.5 底径: 17.4	胎: 砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 5YR7/6橙 (内) 7.5YR7/6橙	脚台の裾部が脚状に張り出し3ヶ所紡錘形の透かしを有する 坏部内弯する	(外) 轆轤による撫で (内)
Tr-05 第8図	坏 土師	口径: 12.2 残高: 3.8 底径: 5.9 1/2	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 5YR7/6橙 (内) 5YR8/4淡橙	平底より内弯して立ち上がる	(外) 轆轤による撫で (内) 轆轤による撫で
Tr-05 第9図	坏 土師	口径: 13.2 残高: 3.7 底径: -- 1/4	胎: 石英・雲母・礫・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 7.5YR7/6橙～2.5YR5/6明赤褐 (内) 2.5YR6/6橙	平底より内弯して立ち上がる	(外) 轆轤による撫で (内) 撫で



第10図



第11図



第12図

Tr-05 第10図	坏 土師	口径: 12.6 残高: 3.3 底径: -- 1/3	胎: 微砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 5YR7/4にぶい橙 (内) 5YR7/6橙～7.5YR8/3淡黄橙	底部より内弯して立ち上がる	(外) 轆轤による撫で (内) 撫で
Tr-05 第11図	坏 土師	口径: 12.2 残高: 3.4 底径: -- 1/5	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 5YR6/4にぶい橙 (内) 5YR6/6橙	丸底より内弯して立ち上がる	(外) 撫で (内) 撫で
Tr-05 第12図	坏 土師	口径: 12.2 残高: -- 底径: 5.4 1/2	胎: 雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 5YR5/3にぶい赤褐 (内) 5YR5/1褐灰	平底より内弯して立ち上がる	(外) 轆轤による撫で (内) 篋磨き





第13図



第14図



第15図

トレンチNo. 図版番号	器種 種類	法	量	質	成形・形態・文様ほか	整	形	ほ	か
Tr-05 第13図	坏 土師	口径: 1.1 残高: 1.1 底径: 5.6 底部2/3	胎: 雲母・砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 7.5YR5/4にぶい橙 (内) 7.5YR7/4にぶい橙				(外) 底部回転糸切り 撫で (内) 撫で		
Tr-05 第14図	坏 土師	口径: 0.8 残高: 4.8 底部完存	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 7.5YR8/3浅黄橙 (内) 7.5YR8/2灰白				(外) (内)		
Tr-05 第15図	坏 土師	口径: 0.6 残高: 5.6 底部ほぼ完存	胎: 微砂粒を僅かに含む 焼: 良好 色: (外) 7.5YR7/6橙 (内) 7.5YR8/3浅黄橙				(外) 底部回転糸切り (内) 撫で		



第16図



第17図



第18図

Tr-05 第16図	坏 土師	口径: 5.6 残高: 3.2 底径: 5.6 底部1/2	胎: 砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 5YR7/6橙 (内) 5YR7/6橙				(外) 底部回転糸切り (内) 轆轤による撫で		
Tr-05 第17図	坏 土師	口径: 12.8 残高: 3.2 底径: 6.0 2/3	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 5YR7/6橙~10YR7/3黄橙 (内) 7.5YR7/4にぶい橙		平底より内弯して立ち上がる		(外) 轆轤による撫で 底部回転糸切り (内) 撫で		
Tr-05 第18図	坏 土師	口径: 13.4 残高: 4.1 底径: 5.8 2/3	胎: 雲母・糠・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 7.5YR6/3にぶい褐・口縁部N2/黒 (内) 黒		平底より内弯して立ち上がり、口縁部で僅かに外反する 内側の底部盛り上がる		(外) 轆轤による撫で 底部回転糸切り (内) 筒磨き 黒色処理		





第19図



第20図



第21図

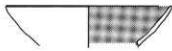
トレンチNo 図版番号	器種 種類	量器	成形・形態・文様ほか	整 形 ほか
Tr-05 第19図	坏 土師	口径: — 残高: 1.7 底径: 5.0 底部完存	胎: 微砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 7.5YR6/3にぶい褐 (内) 黒	平底より内弯して立ち上がる (外) 底部回転糸切り (内) 撫で 黒色処理
Tr-05 第20図	坏 土師	口径: — 残高: — 底径: — 底部3/4	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 5YR7/6橙 (内) 黒	(外) 底部回転糸切り (内) 鏡磨き 黒色処理
Tr-05 第21図	坏 土師	口径: 14.6 残高: 3.5 底径: 5.8 1/4	胎: 雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 10YR7/3 (内) 黒	平底より内弯して立ち上がり口縁に至る (外) 撫で (内) 撫で 黒色処理



第22図



第23図



第24図

Tr-05 第22図	坏 土師	口径: 14.8 残高: 3.7 底径: 6.4 1/4	胎: 石英・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 2.5YR7/6橙 (内) 黒	平底より内弯して立ち上がる 口縁部外反する	(外) 轆轤による撫で (内) 撫で 黒色処理
Tr-05 第23図	坏 土師	口径: 13.4 残高: 3.4 底径: — 1/4	胎: 石英・雲母・礫・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 10YR3/1黒褐 7.5YR6/4にぶい橙 (内) 黒	平底より内弯気味に立ち上がり、口縁部で僅かに外反する	(外) 轆轤による撫で (内) 鏡磨き 黒色処理
Tr-05 第24図	坏 土師	口径: 12.4 残高: 3.3 底径: — 口縁部1/4	胎: 微砂粒を僅かに含む 焼: 良好 色: (外) 5YR7/6橙 (内) 黒	口縁部は内弯する	(外) 轆轤による撫で (内) 轆轤による撫で 黒色処理



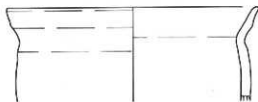


第25図

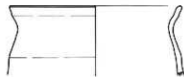


第26図

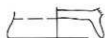
トレンチNo 図版番号	器種 種類	法	量器	質	成形・形態・文様ほか	整形 形 ほか
Tr-05 第25図	坏 土師	口径: 13.0 残高: 3.4 底径: 6.3 1/3	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 7.5YR8/4浅黄橙 (内) 黒		平底より内弯して立ち上がり、口縁に至る	(外) 轆轤による撫で 底部回転糸切り (内) 撫で 黒色処理
Tr-05 第26図	甕 土師	口径: 23.2 残高: 8.7 底径: — 頸部1/8	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 5YR7/8橙 (内) 5YR7/6橙		口縁部で緩やかに外反する 轆轤痕あり	(外) 轆轤整形 (内) 轆轤による撫で



第27図



第28図



第29図

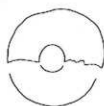
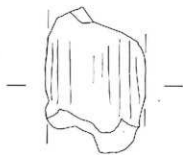
Tr-05 第27図	甕 土師	口径: 20.0 残高: 7.5 底径: — 口縁部1/5	胎: 石英・雲母・礫・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 2.5YR6/6橙 (内) 5YR7/4にぶい橙		口縁部2段に屈曲し外反する	(外) 轆轤による撫で (内) 撫で
Tr-05 第28図	小型甕 土師	口径: 13.8 残高: 5.6 底径: — 口縁部1/8	胎: 石英・雲母・礫・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 7.5YR7/4にぶい橙 (内) 5YR6/6橙		丸みを帯びた胴部から緩く有段気味に立ち上がる口縁部を持つ	(外) 轆轤による撫で (内) 撫で
Tr-05 第29図	腕 土師	口径: — 残高: 2.4 底径: 7.6 腕の高台部	胎: 礫・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 10R4/4赤褐 (内) 5YR4/6赤褐		付け高台 内弯する	(外) 轆轤による撫で (内)







第30図



第31図



第32図

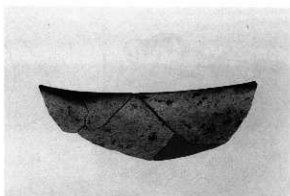


トレンチNo 図版番号	器種 種類	法	量器	質 成形・形態・文様ほか	整 形 ほ か
Tr-05 第30図	甕 須恵	口径: — 残高: 9.0 底径: — 頸部~胴部一部	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) N3/暗灰~2.5YR5/2灰赤 (内) N4/灰	口縁部で「く」状に外反する	(外) 自然軸かか (内)
Tr-05 第31図	羽口 土師	全長: — 全幅: 7.9 内径: 2.0	胎: 白色粒子・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 7.5YR7/6橙~N5/灰 (内) 7.5YR7/6橙~N5/灰		(外) 篋削り (内)
Tr-06 第32図	甕 須恵	口径: — 残高: 10.5 底径: — 胴一部	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 7.5Y6/1灰 (内) N4/灰		(外) 叩き (内)

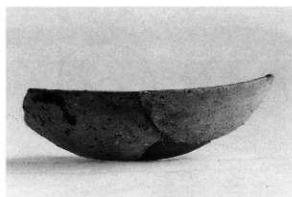
下前田遺跡遺物写真



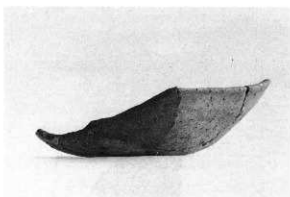
第4図



第6図



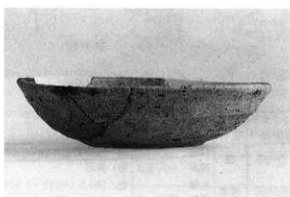
第8図



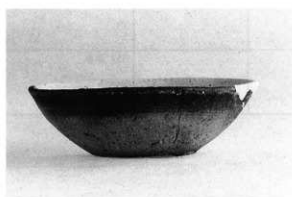
第9図



第12図



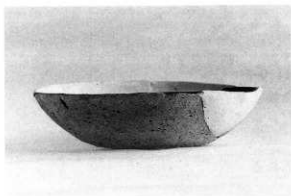
第17図



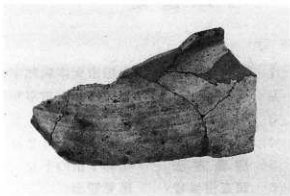
第18図



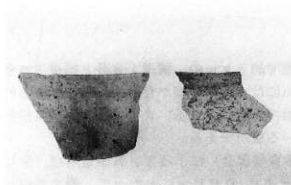
第22図



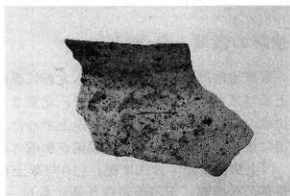
第25图



第26图



第27、28图



第28图



第29图



第30图



第31图



調査風景

みやほらいせき  
宮原遺跡

- |         |                   |
|---------|-------------------|
| 1 調査地   | 上田市大字秋和字宮原 1110-5 |
| 2 原因    | 創価学会上田平和会館新築工事    |
| 3 開発面積  | 4,070㎡            |
| 4 調査日   | 平成9年4月20日         |
| 5 調査方法  | 幅約1mのトレンチを入れる     |
| 6 調査担当者 | 尾見智志              |

### 遺跡の環境と経過

宮原遺跡は、JR上田駅から北西に直線距離で約3kmの、国道18号と国道18号上田バイパスに挟まれた場所で、北東200mには大蔵京古墳が存在している。地形的には、千曲川の氾濫原から1段上がった上田面の西端にあたる。また、太郎山が直接平地に接し、小溪谷の出口に崖錐が形成されている場所である。

「上田の原始・古代文化」（1977年上田市教育委員会）によると、宮原遺跡は「秋和集落の西端部、上田面の段丘端にあり、およそ10,000㎡にわたって、縄文前期の上原式土器・石鏃・打製石斧、弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器の破片などを出土している。しかし、大部分が工場用地の造成で破壊された。」としている。

平成9年4月初めに、株式会社ミヤノの造成地に創価学会の会館が移転する旨の連絡が入った。当該地が宮原遺跡の範囲内であるため試掘調査を行うこととなった。試掘調査の結果、造成等の影響で破壊されている部分があるものの、遺構が残っていることが確認された。そのため、関係者間で保護協議を行った結果、発掘調査が必要であるとの見解に達し、平成9年度中に調査地区の一部を発掘調査することとなった。

### 調査の結果

Tr-01～13の13本のトレンチを設定し試掘調査を実施した。造成等の影響が見受けられ部分的に破壊されているが各トレンチより土壌・溝などの址が検出された。特にTr-03とTr-04の交差している地点では堅穴住居址が検出された。弥生時代後期箱清水期のものと推定される。

Tr-06とTr-07から堅穴住居址5件・土壌1件・溝1条などが検出された。出土した遺物から弥生時代後期箱清水期と古墳時代中期の遺構と推定される。このトレンチについては土層の状態も安定しており、遺構の保存状態も良好である。

Tr-08とTr-09の結果、Tr-06から検出された遺構の広がりを確認した。

また、この2本のトレンチにより中央部分は、造成等の影響により破壊が認められた。

Tr-10、Tr-12、Tr-13から土壌・溝などが検出されている。特に土壌は多数検出された。出土した遺物から古墳時代中期頃と平安時代の遺構と思われる。遺構については、削平を受けているが詳細な調査を必要とする。

Tr-11では削平が激しく、遺構は確認できなかった。

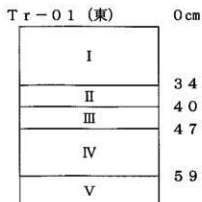
## 遺物

Tr-01	遺物なし
Tr-02	弥生時代後期の甕
Tr-03	弥生時代後期の甕
Tr-04	土師器片
Tr-05	弥生時代後期の甕
Tr-06	弥生時代後期の甕・鉢、土師器の高坏
Tr-07	土師器の甕、坏
Tr-08	須恵器の坏
Tr-09	遺物なし
Tr-10	弥生時代後期の甕・高坏
Tr-11	遺物なし
Tr-12	遺物なし
Tr-13	遺物なし

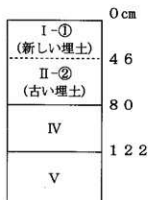
## 土層柱状図

### Tr-01～05

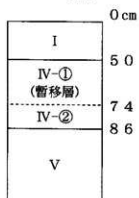
I層	表土・ゴミの混じる造成のための埋立て土
II層	橙褐色・茶褐色土を含む・弱い粘性を持つ
III層	暗青灰色・小石を含む・弱い粘性を持つ
IV層	暗茶褐色・茶褐色の小石を含む
V層	極褐色・小石を含む・粘性を持つ



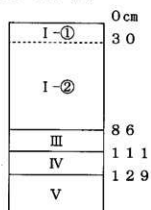
Tr-01 (西)



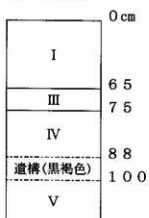
Tr-02 (東)



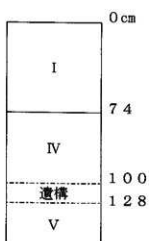
Tr-02 (西)



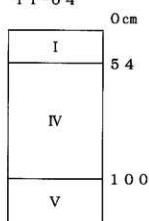
Tr-03 (東)



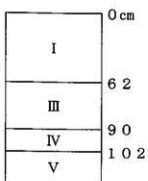
Tr-03 (西)



Tr-04



Tr-05



Tr-06~13

I層 表土・灰黄褐色粘性を持つ

II層 黄灰色

III層 黒褐色・粘性を持つ

IV層 灰黒褐色・黄褐色含む

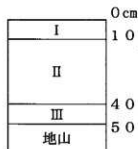
V層 灰黒褐色

VI層 黄灰褐色

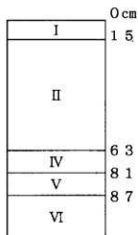
VII層 白灰色・黄褐色土含む

VIII層 白灰色・黒褐色土含む

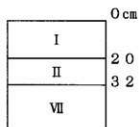
Tr-06



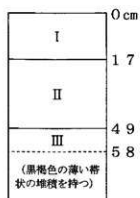
Tr-07



Tr-08



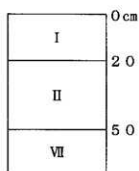
Tr-09



Tr-10



Tr-11



Tr-12

	0 cm
I	
	20
II	
	42
VII	

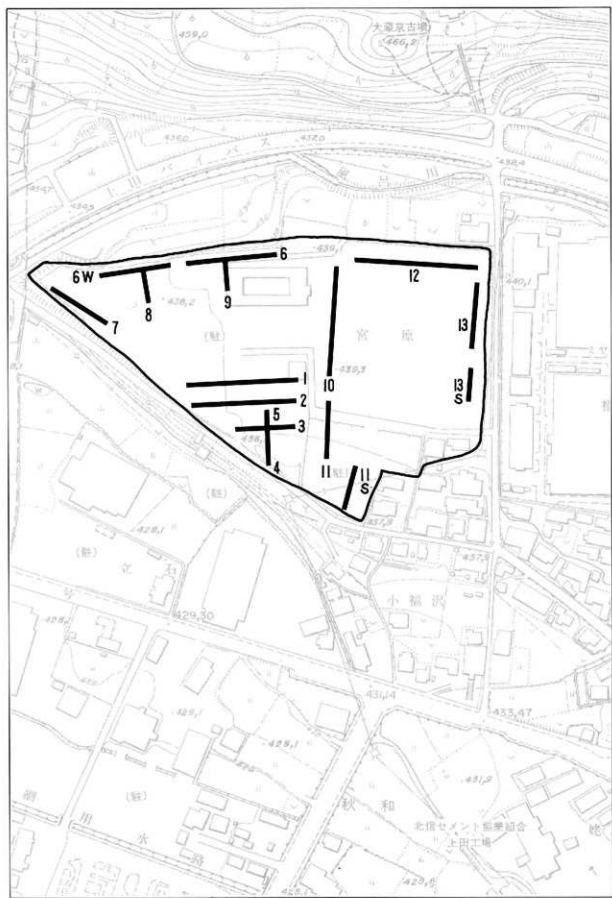
Tr-13

	0 cm
I	
	16
II	
	38
VII	



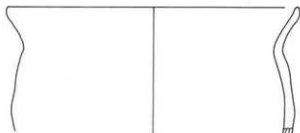
調査風景



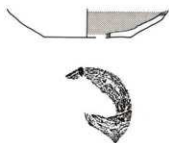


宮原遺跡試掘調査位置図

# 宮原遺跡遺物実測図

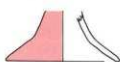


第1図



第2図

トレンチNo. 図版番号	器種 種類	法	量器	質	成形・形態・文様ほか	整	形	ほ	か
Tr-02 第1図	甕 弥生	口径: - 残高: 9.9 底径: - 口縁部~脚部一部	胎: 石英・雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 7.5YR6/4にふい橙 (内) 7.5YR6/4にふい橙		口縁部で外反する	(外) 撫で (内) 篋削りの後、撫で			
Tr-02 第2図	坏 平安	口径: - 残高: 2.2 底径: 6.4 底部一部	胎: 石英・雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 2.5YR6/6橙 (内) 5YR6/4にふい橙~10YR5/1楊灰		平底の底部より開く	(外) 轆轤による撫で 底部回転糸切り (内) 黒色処理			



第3図



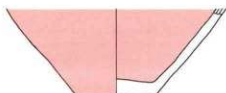
第4図



第5図

Tr-05 第3図	高坏 弥生	口径: - 残高: 4.1 底径: - 脚部一部	胎: 石英・雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 10R5/6赤 (内) 5YR6/6橙~5YR5/2灰褐		裾部外反して大きく開く	(外) 赤色塗彩 (内) 篋削りの後、撫で			
Tr-05 第4図	甕 弥生	口径: - 残高: 5.0 底径: - 口縁部一部	胎: 雲母・砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 7.5YR4/2灰褐 (内) 7.5YR7/3にふい橙		口縁部で緩く「し」状に外反する	(外) 口縁部に波状文を施す (内) 撫で			
Tr-06 第5図	蓋 弥生	口径: - 残高: 3.0 底径: - 脚部一部	胎: 石英・金雲母・雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 7.5YR6/4にふい橙 (内) 5YR5/4にふい赤褐		大きく外反して開く 握み部に一孔を有する	(外) 縦位の篋磨き (内) 篋削りの後、撫で			





第6図

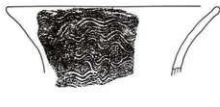


第7図

トレンチNo. 図版番号	器種 種類	法	量	器	質	成形・形態・文様ほか	整形	ほか
Tr-06 第6図	鉢 弥生	口径: — 残高: 6.8 底径: 6.4 胴部一部・底部4/5	—	胎: 石英・雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 10R4/6赤～5YR5/4にぶい赤褐 (内) 10R4/6赤	—	平底より内弯気味に開いて、立ち上がる	(外) 赤色塗彩 (内) 赤色塗彩	
Tr-06 第7図	甕 弥生	口径: 24.0 残高: 4.2 底径: — 口縁部一部	—	胎: 石英・金雲母・雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 5YR7/6橙～10YR5/3にぶい黄褐 (内) 5YR6/6橙～10YR5/2灰黄褐	—	口縁部で外反する	(外) 波状文を施す (内) 横位の撫で	



第8図



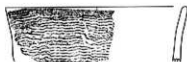
第9図



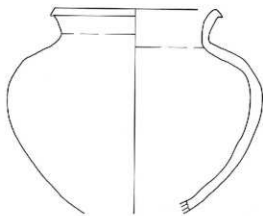
第10図

Tr-06 第8図	甕 弥生	口径: 15.9 残高: 7.4 底径: — 口縁部一部	—	胎: 石英・雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 5YR6/6橙～7.5YR7/4にぶい橙 (内) 7.5YR6/4にぶい橙	—	口縁部で外反する	(外) 波状文を施す (内) 横位の撫で	
Tr-06 第9図	甕 弥生	口径: 16.9 残高: 5.3 底径: — 口縁部一部	—	胎: 石英・雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 5YR6/6橙～7.5YR6/4にぶい橙 (内) 7.5YR6/4にぶい橙	—	口縁部で外反する	(外) 波状文を施す (内) 横位の撫で	
Tr-06 第10図	甕 弥生	口径: — 残高: 6.0 底径: — 胴部一部	—	胎: 石英・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 7.5YR6/6橙 (内) 2.5YR4/8赤褐	—		(外) 口縁部にT字文を施す (内) 横位の刷毛撫で 赤色塗彩	





第11図



第12図

トレンチNo. 図版番号	器種 種類	法	量	器	質	成形・形態・文様ほか	整形	ほか
Tr-07 第11図	甕 弥生	口径: 15.2 残高: 4.5 底径: - 口縁1/6	胎: 石英・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 7.5YR5/4にぶい褐 (内) 10YR3/1黒褐			口縁部で緩く外反する	(外) 波状文を施す (内)	
Tr-07 第12図	甕 土師	口径: 12.8 残高: 16.4 底径: - 口縁1/2・胴部1/3	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 7.5YR8/4浅黄橙 (内) 10YR7/3にぶい黄橙			球状の胴部より頸部で屈曲する。口唇部に面取りを施す	(外) 胴部下部に叩き目痕有り 轆轤による撫で (内) 轆轤による撫で	



第13図



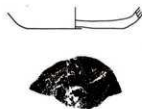
第14図



第15図

Tr-07 第13図	甕 土師	口径: - 残高: 4.3 底径: - 口縁部一部	胎: 石英・雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 5YR6/6橙 (内) 5YR6/6橙			口縁部外面に段をもって内寄気味に立ち上がる	(外) 横位の撫で (内) 横位の撫で	
Tr-07 第14図	甕 土師	口径: - 残高: 4.0 底径: - 頸部1/3	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 7.5YR7/4にぶい橙 (内) 7.5YR7/4にぶい橙			細い刻み目を入れた隆帯が巡る	(外) (内) 横位の撫で	
Tr-07 第15図	甕 須恵	口径: - 残高: 4.1 底径: - 胴部一部	胎: 石英・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 5YR4/3にぶい赤褐 (内) 5Y6/2灰オリーブ				(外) 叩き目痕 (内) 轆轤による撫で	

0 10cm



第16図



第17図



第18図

トレンチNo 図版番号	器種 種類	法	量器	質成形・形態・文様ほか	整形ほか
Tr-08 第16図	坏 須恵	口径: 8.4 残高: 1.8 底径: 7.6 底部1/3	胎: 石英・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 10Y5/1灰 (内) 10Y5/1灰		(外) 轆轤による撫で (内) 轆轤による撫で
Tr-10 第17図	甕 弥生	口径: - 残高: 3.8 底径: 5.3 底部1/2	胎: 石英・雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 7.5YR6/4にぶい橙~5Y3/1オリーブ黒 (内) 7.5YR6/4にぶい橙	平底より内寄気味に開く	(外) 篋削りの後、撫で (内) 撫で
Tr-10 第18図	高坏 弥生	口径: - 残高: 8.5 底径: - 脚部一部	胎: 石英・雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 7.5R4/6赤 (内) 7.5YR7/4にぶい橙	脚部に4等分された三角形の窓を施す	(外) 赤色塗彩 (内) 篋削りの後、撫で



第19図



第20図



第21図

Tr-10 第19図	甕 弥生	口径: - 残高: 3.3 底径: 6.4 底部一部	胎: 石英・雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 5YR5/4にぶい赤褐 (内) 7.5YR7/4にぶい橙~5Y3/1オリーブ黒	平底より開いて立ち上がる	(外) 刷部、木口状工具による撫で (内) 篋削りの後、撫で
表採 第20図	鉢? 縄文	口径: - 残高: 2.4 底径: - 口縁部一部	胎: 石英・雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 7.5YR5/4にぶい褐 (内) 10YR5/3にぶい黄褐		(外) 綾杉縄文を施す (内)
表採 第21図	深鉢 縄文	口径: - 残高: 3.6 底径: - 胴部一部	胎: 石英・雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 10YR6/3にぶい黄橙 (内) 7.5YR6/4にぶい橙		(外) 沈線による文様を施す (内) 削りの後撫で

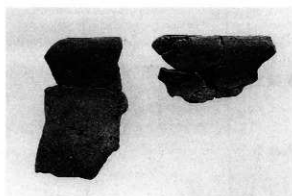




第 22 図

トレンチNo. 図版番号	器 種類	種 類	法	量 器	質 成形・形態・文様ほか	整 形 ほ か
表採 第22図	結繩車	口径: 残高: 底径:	- - -	胎: 雲母を含む 焼: 良好 色: (外) 5YR6/1灰~N3/暗灰 (内) 5YR4/1灰		(外)  (内)

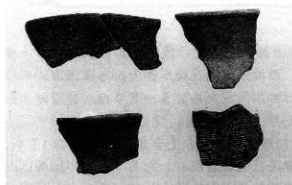
# 宮原遺跡遺物写真



第1図



第2図



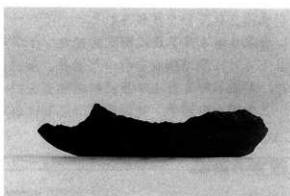
第7,8,9,10図



第12図



第14図



第16図



調査風景



調査風景

そめやだいじょうりすいでんあといせき  
染屋台条里水田跡遺跡 I

- |         |                         |
|---------|-------------------------|
| 1 調査地   | 上田市大字住吉字塚田 584-1 外 13 筆 |
| 2 原因    | マツヤ上田インター店新築工事          |
| 3 開発面積  | 7,740.88㎡               |
| 4 調査日   | 平成9年5月17日               |
| 5 調査方法  | 幅約1mのトレンチを入れる           |
| 6 調査担当者 | 尾見智志                    |

### 遺跡の環境と経過

染屋台条里水田跡遺跡は、上田市街地の東方部にあり北は虚空蔵山と横山丘陵、東は神川に望む段丘崖が東北方から西南方向へ、西は染屋段丘崖が西方から東南方向の三側線に囲まれた三角形の地域であり、東辺は神川河床から25～30m、西辺は上田市街面から15～20mの高さを持つ台地であり、面積は約5.76km<sup>2</sup>である。

上田市文化財分布図によると、染屋台条里水田跡遺跡は段丘上全体に広がっているが、現在のところ確認はされていない。しかし、同段丘上の5次にわたる「創置の信濃国府跡」確認調査において、各所に小規模ながら建物址などが確認されている。また、平成8年度から2年度にわたり店舗建設のため調査している西之手遺跡では掘立柱建物址群が確認されており注目される。

平成9年4月7日に株式会社マツヤから上田市に開発事業届が提出され、平成9年4月14日に現地調査を行った結果、染屋台条里水田跡遺跡の範囲内であることを確認した。平成9年5月17日に試掘調査を行ったが、遺構・遺物は確認できなかった。

この調査の結果、発掘調査の必要は認められなかった。

### 調査の結果

Tr-01～08までの8本のトレンチを設定し、試掘調査を行った。小河川跡が確認されたのみで、水田跡を含めて遺構は確認することができず、遺物も弥生時代後期箱清水式期の土器片が一点確認されたのみである。

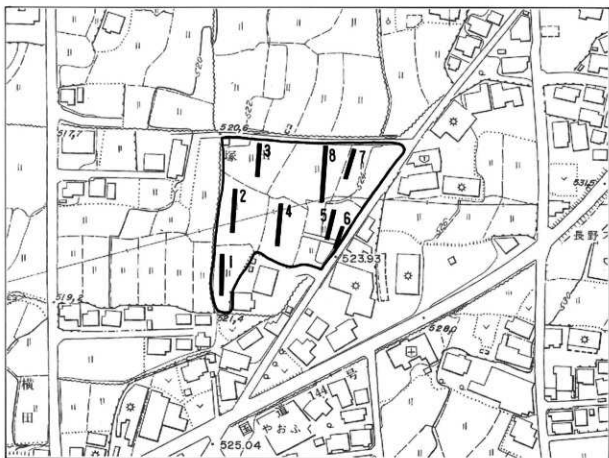


## 土層柱状図

	0 cm	
I	1 4	I層 表土 (耕作土)・黒褐色・シルト質埴土
II	3 7	II層 明褐色に橙色が混じる重埴土
III	4 5	III層 灰褐色に褐色が混じる重埴土
IV		IV層 暗褐色重埴土



調査風景



染屋台条里水田跡遺跡試掘調査位置図



調査風景

そめやだいじょうりすいでんあといせき にしのていせき  
染屋台条里水田跡遺跡（西之手遺跡）

1 調査地	上田市大字古里字西之手
2 原因	株式会社やおふく店舗移転工事
3 開発面積	1,320㎡
4 調査日	平成9年10月20日
5 調査方法	幅約1mのトレンチを入れる
6 調査担当者	西澤和浩

### 遺跡の環境と経過

染屋台条里水田跡遺跡は、上田市街地の東部部にあり、北は虚空蔵山と横山丘陵、東は神川に望む段丘崖が東北方から西南方向へ、西は染屋段丘崖が西方から東南方向の三側線に囲まれた三角形の地域であり、東辺は神川河床から25～30m、西辺は上田市街面から15～20mの高さを持つ台地であり、面積は約5.76km<sup>2</sup>である。

上田市文化財分布図によると、染屋台条里水田跡遺跡は段丘上全体に広がっているが、現在のところ水田跡は、確認はされていない。しかし、同段丘上の5次にわたる「創置の信濃国府跡」確認調査において、各所に小規模ながら建物址などが確認されている。また、平成8年度から2ヶ年にわたり調査を行った、株式会社やおふくの店舗移転に伴う西之手遺跡発掘調査では、掘立柱建物址群が確認されており注目される。

今回試掘調査を行った場所は、上記西之手遺跡発掘調査を行った、隣接した北側にあたる。広域農道（浅間サンライン）から株式会社やおふくの店舗へ進入する部分にあたり、住居の移転を待って、平成9年10月20日に試掘調査を実施した。

この調査の結果、西之手遺跡が試掘調査区内にまで広がっていることを確認したため、株式会社やおふくに承諾を得たうえで、緊急発掘調査を行った。

### 調査の結果

調査は、施工区にTr-01から05の5本のトレンチを設定し、バックホーにより試掘調査を行った。Tr-01・02・03・04から掘立柱建物址の一部と思われる柱穴が、計8箇所検出された。また、Tr-02からは幅20～30cmの溝状遺構が確認され、土師器片が出土した。Tr-05は、宅地造成等の影響で攪乱されており、遺構・遺物は全く確認できなかった。

## 遺物

Tr-01	遺物なし
Tr-02	土師器片
Tr-03~05	遺物なし

## 土層柱状

### Tr-01・02

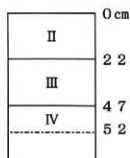
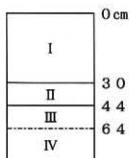
I層	灰色・攪乱層
II層	にぶい褐色 10cm大の礫が混じるシルト質埴土
III層	褐色・埴土
IV層	遺構検出面、暗赤褐色・重埴土

### Tr-03

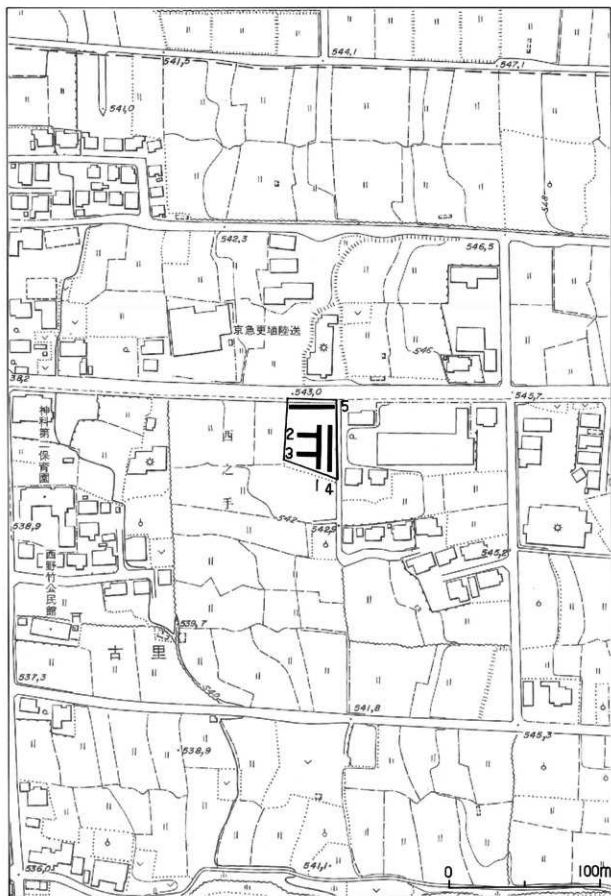
I層	灰色・攪乱層
II層	にぶい黄褐色・シルト質埴土
III層	赤褐色・シルト質埴土
IV層	遺構検出面・褐灰色・重埴土

Tr-01・02

Tr-03



調査風景



西之手遺跡試掘調査位置図

はちまんうらいせき  
八幡裏遺跡

- 1 調査地 上田市中央北3丁目3253-4 外1筆
- 2 原因 国立長野病院駐車場建設
- 3 開発面積 1,282.62㎡
- 4 調査日 平成9年10月25日
- 5 調査方法 幅約1mのトレンチを入れる
- 6 調査担当者 西澤和浩

### 遺跡の環境と経過

八幡裏遺跡は、太郎山の南山麓にあり市街地を見下ろす位置にある。黄金沢扇状地の西端、和合沢の小扇状地の末端部にあたる。遺跡北部和合沢の崖線の出口には、「石切」という地字名が残り、緑色凝灰岩がここから切り出されていた。この付近一帯は砂礫地で、一面大星桑園といわれ養蚕業者に大事にされた場所であったが、現在では住宅地となっている。

「上田市の原始・古代文化」(1977年上田市教育委員会)によると、「国立長野病院敷地内を中心に分布する思川遺跡で、昭和27年の改築工事の際に、縄文中期の加曾利E式・後期の堀之内式・加曾利B式などの土器片とともに、磨製石斧1、打製石斧6、ニホンジカ・イノシシなどの獣骨を出土した。」とある。

平成6・7・8年度の3年間、国立長野病院建設に伴う八幡裏遺跡発掘調査が、実施された。

平成6年度の発掘調査(「上田市文化財調査報告書第61集・八幡裏遺跡Ⅱ」1997年上田市教育委員会)では、縄文時代中期後葉から後期中葉の遺物を多く出土している。曾利V式系、称名寺式系、堀之内I・II式系、加曾利B式系の土器のほか、北陸系の三十稻場式の土器も出土した。住居址は、縄文時代中期後葉から後期初頭と考えられ、7件確認された。

また、8世紀頃から11世紀前半の住居址が、13件確認されている。遺物については、黒色処理された坏・碗を多く出土し、墨書土器や、灰釉陶器も出土している。

平成9年秋、国立長野病院から駐車場を建設するとの連絡を受け、地権者の承諾を得たうえで試掘調査を行った。

### 調査の結果

調査地区の北から東西にTr-01・02・03のトレンチを設定し、Tr-02・03の間、調査地区東側に南北にTr-04を、調査地の最東端へ南北にTr-05の計5

本を設定し試掘調査を行った。

Tr-01からは、土師器片が数点出土したが遺構は確認できなかった。

Tr-02と04の交差点から堅穴住居と思われる遺構と、掘立柱建物址の柱穴と思われる遺構1件が検出された。また、黒色処理された土師器の坏片が出土し、焼土が確認された。

Tr-03・05からは遺構・遺物の確認はできなかった。

この試掘の結果、国立長野病院と協議を行い、平成9年度中に発掘調査を行うこととなった。

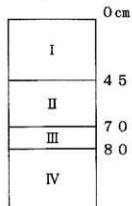
## 遺物

- Tr-01 土師器片・甕
- Tr-02 土師器の坏・甕
- Tr-03 遺物なし
- Tr-04 土師器の坏
- Tr-05 遺物なし

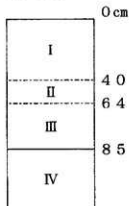
## 土層柱状図

- I層 ぶい褐色・3cm大の礫混じる軽埴土
- II層 褐灰色・10cm大の礫多量に混じる壤土
- III層 ぶい黄褐色・砂質埴壤土
- IV層 黒褐色・礫多量に混じる砂壤土

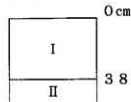
Tr-01

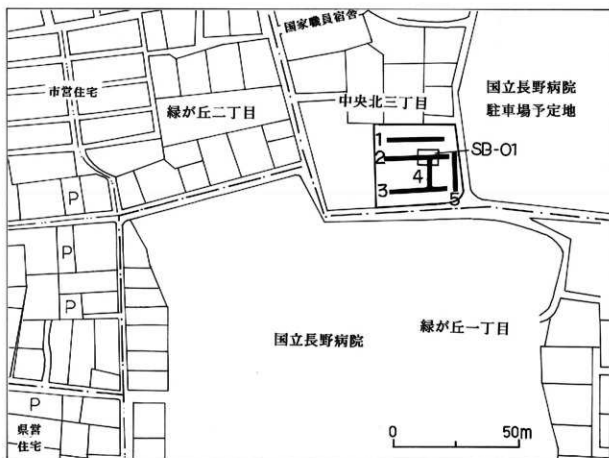


Tr-02



Tr-03-04-05





八幡裏遺跡試掘調査位置図



調査風景



# 八幡裏遺跡遺物実測図



第1図



第2図



トレンチNo 図版番号	器種 種類	法 量器	質 成形・形態・文様ほか	整 形 ほ か	
Tr-02 第1図	坏 土師	口径: 一 残高: 2.2 底径: 6.8 底部一部	胎: 石英・雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 5YR6/4にぶい橙 (内) 7.5YR7/4にぶい橙	平底の底部より内寄気味に開く 底部篋削り?	(外) (内)
Tr-02 第2図	坏 土師	口径: 一 残高: 1.5 底径: 6.4 底部一部	胎: 石英・雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 7.5YR6/3にぶい褐 (内) N3/0暗灰	底部篋削り?	(外) 横位の撫で (内) 横位の撫で



調査風景

ひがしばいせき

## 東馬場遺跡

- |         |               |
|---------|---------------|
| 1 調査地   | 上田市大字前山1616番地 |
| 2 原因    | 県営畑地帯総合土地改良事業 |
| 3 開発面積  | 60,000㎡       |
| 4 調査日   | 平成10年1月5日     |
| 5 調査方法  | 幅約1mのトレンチを入れる |
| 6 調査担当者 | 尾見智志          |

### 遺跡の環境と経過

「上田市の原始・古代文化」(1977年上田市教育委員会)によると、「上田市西前山集落公民館西方約350m付近の畑地にあり、およそ5,000㎡にわたって、縄文期の打製石器・石錐・有孔石鏃、弥生後期の箱清水式土器・磨製石鏃、後期の須恵器が出土している。」と記述されている。平成5年度において当該事業に先立ち試掘調査を行ったが、当時の施工計画からは遺跡破壊の影響はないと思われた。

しかし、上田市誌編纂作業による研究の結果、平成5年度に行った試掘調査範囲外である、池跡の部分が中世の御家人である手塚氏の馬場跡である可能性が出てきたため、関係諸機関の協力を得て直ちに確認調査を行った。

### 調査の結果

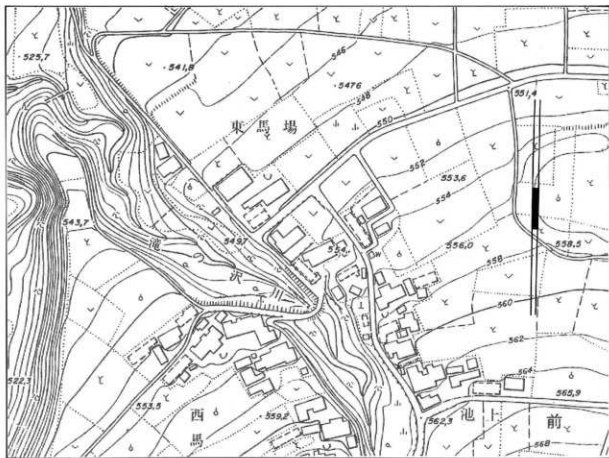
上田市誌編纂室の中世部会から、上田市西前山集会所の南側に位置する江戸時代の池跡は、その前身は中世豪族の手塚氏の馬場跡である可能性が高いと連絡を受けた。

池跡土手部分の中には、馬場の土手・柵跡が残存していることが予想されたため、池跡の土手を縦断している農道の側面に、5本のトレンチを設定し試掘調査を行った。

いずれのトレンチからも遺物の出土はなかった。トレンチの土層は、黒褐色と黄褐色の土がほぼ水平に縞模様を呈して堆積していた。これは、土手を構築した時の版築の跡と推察される。

### 遺物

なし



東馬場遺跡試掘調査位置図



調査風景

こくぶいせきぐん どうにしいせき  
国分遺跡群 (堂西遺跡)

1 調査地	上田市大字国分字堂西
2 原因	市道川辺町国分線建設
3 開発面積	10,350㎡
4 調査日	平成10年1月26・27日
5 調査方法	幅約1mのトレンチを入れる
6 調査担当者	清水 彰

### 遺跡の環境と経過

上田市大字国分地籍は、北方には、段丘崖が東西に続き、その上方には、上田市のシンボルといえる太郎山の雄姿が見られる。南方には、千曲川の氾濫原に当たる平坦面が開け、そのさきに千曲川が流れている。千曲川の対岸には小牧山塊が広がる。この付近は、上田・小県地方の模式的な段丘地形といわれ、4段にわたるひな壇のような地形である。

国分遺跡群は、上沢沖・古城・堂浦・屋敷・堂西の5遺跡により構成されている。今回の調査地は堂西遺跡に当たる。「上田市の原始・古代文化」(1977年上田市教育委員会)によると、「現国分寺の北西方の水田地帯、およそ60,000㎡にわたる遺跡で、水田地帯のため、すべてが連続する1個の遺跡とされるか明確でない。出土遺物は、縄文期の石棒、弥生後期の箱清水式、後期の土師・須恵器である。」としている。

今回の試掘調査は、平成9年度に発掘調査を実施した部分の西側について遺跡の有無を確認した。その際、地権者の承諾は上田市土木課に得られた。

この調査の結果、上田市建設部土木課と協議を行い、平成10年度中に発掘調査を行うこととなった。

### 調査の結果

調査は、4本のトレンチを設定し、小型バックホーにより掘削し、土層断面を精査した。

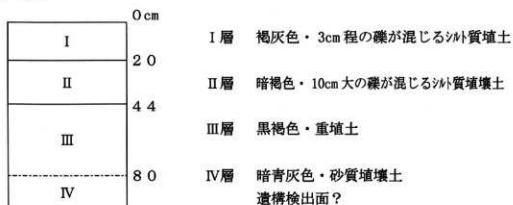
その結果、Tr-02・03では遺構・遺物ともまったく検出されなかった。Tr-01では、土師器片が1片確認されたが遺構は確認されず、他所からの流れ込みと思われる。Tr-04では、GL-約80cmで黒色の落ち込みと、土師器・須恵器・灰釉陶器を数片確認した。

## 遺物

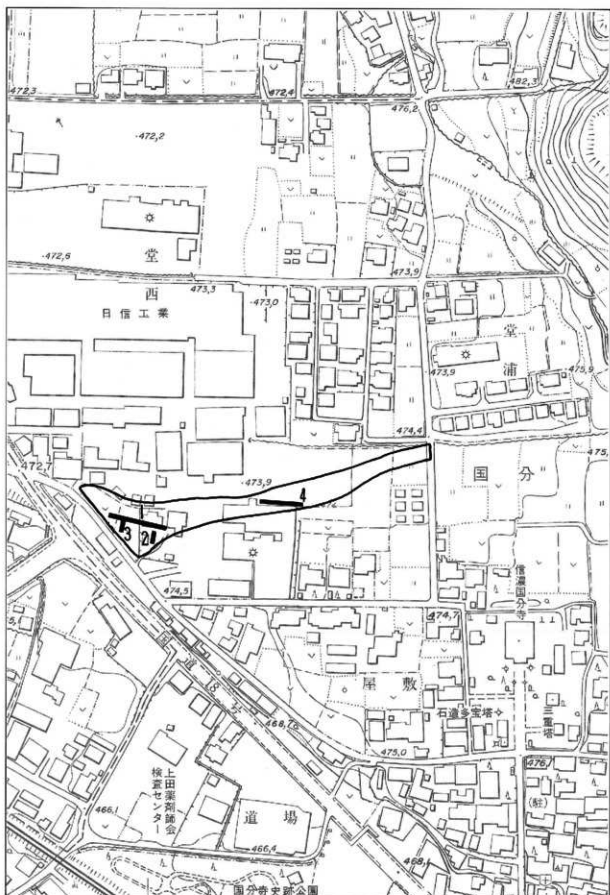
- Tr-01 土師器片  
 Tr-02・03 遺物なし  
 Tr-04 土師器の坏、須恵器の坏・甕、灰釉陶器の碗

## 土層柱状図

Tr-04



調査風景



国分遺跡群試掘調査位置図

そめやだじょうりすいでんあといせき  
染屋台条里水田跡遺跡Ⅱ

1 調査地	上田市大字住吉字諏訪田 58 番地 2 外 9 筆
2 原因	(仮称) アルペン上田バイパス店新築工事
3 開発面積	12, 852.17㎡
4 調査日	平成10年1月28・29・30日
5 調査方法	幅約1mのトレンチを入れる
6 調査担当者	西澤和浩

### 遺跡の環境と経過

染屋台条里水田跡遺跡は、上田市街地の東部部にあり北は虚空蔵山と横山丘陵、東は神川に望む段丘崖が東北方から西南方向へ、西は染屋段丘崖が西方から東南方向の三側線に囲まれた三角形の地域であり、東辺は神川河床から25～30m、西辺は上田市街面から15～20mの高さを持つ台地であり、面積は約5.76km<sup>2</sup>である。

上田市文化財分布図によると、染屋台条里水田跡遺跡は段丘上全体に広がっているが、現在のところ確認はされていない。しかし、同段丘上の5次にわたる「創置の信濃国府跡」確認調査において、各所に小規模ながら建物址などが確認されている。また、平成8年度から2年度にわたり店舗建設のため調査している西之手遺跡では、掘立柱建物址群が確認されており注目される。

平成9年12月19日に株式会社アルペンから上田市に開発事業届が提出され、平成10年1月7日に現地調査を行った結果、染屋台条里水田跡遺跡の範囲内であることを確認した。平成10年1月28日から30日の3日間で試掘調査を行ったが、遺構・遺物は確認できなかった。

この調査の結果、発掘調査の必要は認められなかった。

### 調査の結果

Tr-01～09までの9本のトレンチを設定し、試掘調査を行った。その結果、埋蔵文化財は全く確認されなかった。

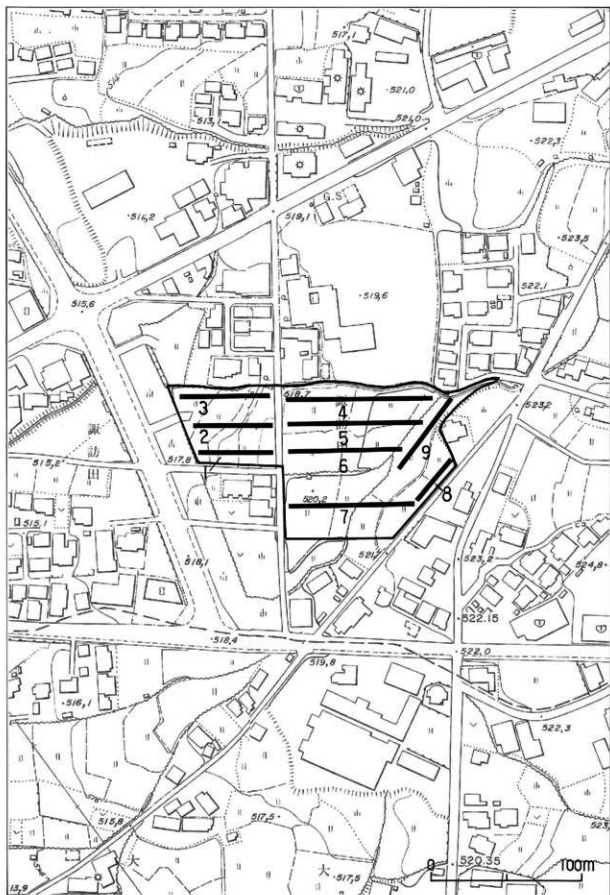
## 土層柱状図

I	0 cm	
II	2 4	I層 表土（耕作土）・黒褐色・シルト質埴土
III	3 9	II層 褐灰色・重埴土
		III層 灰褐色に明黄褐が混じるシルト質埴土



調査風景





染屋台糸里水田跡遺跡Ⅱ試掘調査位置圖

## とのだいせき 殿田遺跡

1 調査地	上田市大字秋和字後田 外
2 原因	上田都市計画事業（秋和常磐城土地区画整理事業）
3 開発面積	189,000㎡
4 調査日	平成10年2月16・17日
5 調査方法	幅約1mのトレンチを入れる
6 調査担当者	西澤和浩

### 遺跡の環境と経過

殿田遺跡は、JR上田駅から北北西に直線距離にして2.6km程の位置にあり、上田市大字秋和と常磐城との境にある。また、太郎山が直接平地に接するところがあり、その押し出しによる砂礫地のため水捌げがよく、現在でも果樹栽培が行われているが、近年宅地造成により住宅が増えている。

「上田市の原始・古代文化」（1977年上田市教育委員会）によると、「横畑遺跡の南麓斜面の先端部にあたり、約10,000㎡にわたって中・後期の土師器を出土する。」とある。

また、1985年に一般国道18号上田バイパス改築工事に伴い、殿田遺跡緊急発掘調査が行われている。調査区域は、後世の畑地造成のためかつての地形を変えているが、かろうじて削平からまぬがれた堅穴住居址5件と、土壇2基などが検出されている。遺物は、土師器の坏・甕、須恵器の坏・蓋・長頸壺・四耳壺・大甕、灰釉陶器の碗等が出土し、敲石や「和同開珎」も出土している。総じて、この遺跡の土師器はその形態・調整より、9・10世紀の特徴を示しているとしている。

平成9年10月に上田市市街地整備課より、平成10年度から上田市大字秋和と土地区画整理事業を行うとの連絡があった。上田市文化財分布図で調べたところ、殿田遺跡の範囲内であることが確認されたため協議を行い、地権者の承諾を得たうえで、試掘調査の準備に取り掛かった。

事業面積189,000㎡と広大であるため、平成10年度において事業地全面が施工されるわけではなく、果樹栽培等耕作を行う農地もあるため、試掘調査の可能な場所だけを、平成10年2月16・17日の2日間で試掘調査を行った。

## 調査の結果

試掘調査地は2箇所に分れているため、それぞれA調査地・B調査地とし、A調査地にTr-01から04を、B調査地にTr-05から07までを設定し、その連番を附した7本のトレンチで調査を行った。

A調査地のTr-01では、幅30cm程の溝状遺構1条が確認された。また、遺構の確認できない場所から、土師器片が出土した。Tr-02では、Tr-01から続くと推察される溝状遺構が1条検出され、土師器の坏・甕の一部と「元祐通宝」1点が出土した。

「元祐通宝」は、北宋の銅銭で元祐元年（1086年）から鑄造された貨銭である。渡来銭の多くは、平安末期より鎌倉・室町時代にかけて、幕府または民間貿易により輸入された。皇朝銭の鑄銭停止以後、寛文10年（1670）の渡来銭使用禁止令迄の長い間、わが国の通貨として広く使用された銅銭の一種である。

Tr-03・04・05・06では、土師器片が出土しているが遺構は確認できなかった。

B調査地のTr-05・06は、水田造成を行ったためか削平されてしまっている。Tr-07からは、掘立柱建物址の柱穴と思われる遺構が4基確認された。ここからも土師器片が出土している。

この調査の結果、事業主と協議を行い、A調査地周辺に埋蔵文化財が存在する可能性の高いことを伝え、隣接する果樹栽培地を、栽培が終了した時期に改めて試掘を行うことで了承を得た。また、B調査地区の一部は、発掘調査を行う必要があるが、その隣接する畑地の耕作が終了したところで試掘を行い、その結果に応じ総体的に発掘調査を行うこととなった。

## 遺物

Tr-01	土師器の甕・坏
Tr-02	土師器の坏・甕、銭貨
Tr-03～07	土師器の坏

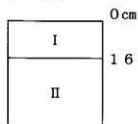
## 土層柱状図

### Tr-01~04

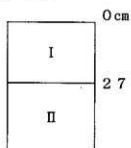
I層 表土、黒褐色、シルト質埴土

II層 褐色、壤土、5~10cmの礫多量に含む

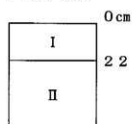
Tr-01



Tr-02



Tr-03・04



### Tr-05~07

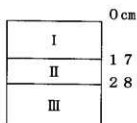
I層 表土、にぶい褐色、シルト質埴土

II層 褐灰色、シルト質埴土

III層 灰褐色、粘性の強い埴土

IV層 黄褐色、重埴土

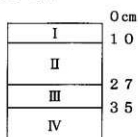
Tr-05

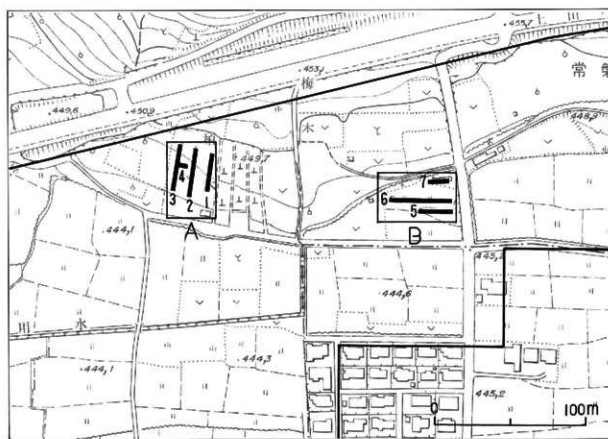
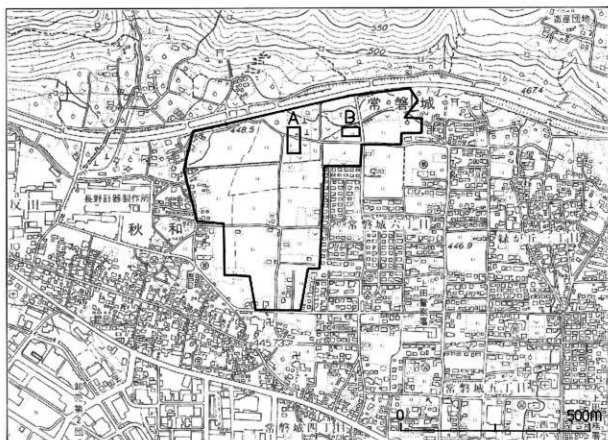


Tr-06



Tr-07





殿田遺跡試掘調査位置図

# 殿田遺跡遺物実測図



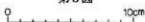
第 1 図



第 2 図



第 3 図



トレンチNo. 図版番号	器種 種類	法 量	器	質 成形・形態・文様ほか	整 形 ほ か
Tr-02 第 1 図	坏 土師	口径: - 残高: 1.1 底径: 5.8 底部一部	胎: 石英・細砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 7.5YR7/6橙~10YR7/3にぶい黄橙 (内) 7.5YR6/4にぶい橙	上げ底気味の底部	(外) 底部回転承切り 轆轤による推で (内)
Tr-02 第 2 図	甕 須恵	口径: - 残高: 3.5 底径: - 胴部一部	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 2.5Y4/1黄灰 (内) N5/0灰		(外) 叩き目を施す (内)
Tr-02 第 3 図	甕? 土師	口径: - 残高: 0.8 底径: 6.4 底部ほぼ完存	胎: 石英・雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外) 2.5YR6/6橙~5YR7/4にぶい橙 (内) 5Y4/1灰	平底	(外) 底部回転承切り (内)



第 4 図



Tr-02 第 4 図	銅銭 宋銭	直径: 2.45 厚さ: 0.12 重さ: 3.16g	名: 『元祐通宝』
----------------	----------	-----------------------------------	-----------

# 報告書抄録

ふりがな	へいせい9ねんどしないいせき			
書名	平成9年度 市内遺跡			
副書名	平成9年度市内遺跡発掘調査報告書			
シリーズ名	上田市文化財調査報告書			
シリーズ番号	第71集			
編著者名	中沢徳士、尾見智志、西澤和浩、清水 彰			
編集機関	上田市教育委員会			
所在地	〒386-0025 長野県上田市天神2丁目4番74号 TEL 0268(22)4100			
発行年月日	1998年3月25日			
ふりがな 所収遺跡名	コード		試掘・事業 区域面積 (㎡)	調査原因
	市町村	遺跡番号		
標名山古墳	20203	266		確認調査
下前田遺跡		100	1,299.41	賃貸住宅建設
官原遺跡		76	4,070	創価学会上田平和会館建設
染屋台糸里水田跡遺跡Ⅰ		52	7,740.88	店舗建設
染屋台糸里水田跡遺跡 (西之手遺跡)		52(440)	1,320	店舗建設
八幡裏遺跡		64	1,282.62	駐車場建設
染屋台糸里水田跡遺跡Ⅱ		52	12,852.17	店舗建設
東馬場遺跡		243	60,000	県営畑地帯総合土地改良事業
国分遺跡群 (笠浦遺跡)		54	10,350	市道川辺町国分線建設
殿田遺跡		68	189,000	上田都市計画事業

---

---

上田市文化財調査報告書第71集

平成9年度

**市内遺跡発掘調査報告書**

発行 平成10年3月25日  
上田市教育委員会  
〒386-0025 上田市天神二丁目4番74号

印刷 株式会社上田ワードプロセス企画

---

---